

ドライブ・テクニック

CORONA *MARK II* VAN・PICK-UP



経済的な運転

1. 車速にマッチしたまめなギヤの変速を行なってください。

低速ギヤで高速までひっぱったり、トップ・ギヤでノッキングさせながら走るのはエンジンに悪影響をおよぼすばかりでなく燃料消費を増大させます。

2. 加速はゆるやかに行かない不必要な急加速、急ブレーキは慎んでください。また、所要のスピードまで加速したらできるだけ一定のスピードで走り続けます。これが燃料節約の秘けつです。

3. 不必要な高速走行は慎んでください。

4. 正しい取り扱いと、十分な定期点検をすることにより、車の性能を100%発揮させることは、燃料消費を節約するものにもなります。

5. 発進、停止の回数はできるだけ少なくしてください。発進時には多量の燃料を必要とします。

6. エンジンの冷え過ぎは熱効率を悪く

し燃費を増大させます。寒冷時にエンジンが暖まりにくいときには、エンジン前面に適当なおおいをして冷却水温が80℃前後になるようにしてください。

ブレーキの上手な使い方

ブレーキを踏む場合は、周囲の状況に注意してください。特に後続車が接近して走っているときは、一、二度軽くブレーキをかけ、後続車に注意をうながしてください。

高速で走行している場合、また長い下り坂や急な下り坂では、フット・ブレーキに頼らず、エンジン・ブレーキを使用するのが安全です。フット・ブレーキは要所だけ使用するようにします。

坂を下る場合、ギヤは登りのとき使ったギヤを使うのが基本です。

もし、フット・ブレーキだけで長い坂を下りますと、フェード現象やペーパー・ロック現象また、降雨時とか水たまりを

走行しますとブレーキ・ドラム内に水が浸入し、一時的にブレーキがきかなくなることがあり、危険です。このようなときには、安全のため速度を落とし、ブレーキ操作をくり返しながらしばらく走りますと、ブレーキ・ライニングの湿りが早く乾燥し、ききがよくなります。

■フェード現象について (踏みごたえがある)

ブレーキの摩擦面が過熱すると、摩擦係数が急激に低下して、摩擦力が減る結果同じ力でブレーキ・ペダルを踏んでも制動距離が非常に長くなるか、きかなくなることがある現象をいいます。

■ペーパー・ロック現象について (踏みごたえがない)

ブレーキが極度に過熱されると、ブレーキ・フルードが沸騰し、あわができません。したがって、ブレーキ・ペダルを踏む力は、あわを圧縮するだけでライニングを押し付ける力にならず、制動力がきわめて低下する現象をいいます。

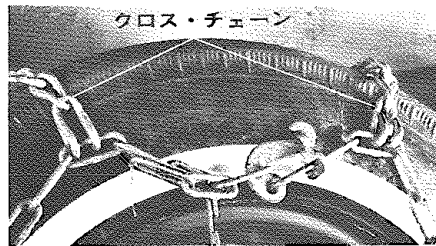
雪路、凍結路の注意

雪路とか凍結路を走るには、スノー・タイヤまたはタイヤ・チェーンが必要です。スノー・タイヤまたはタイヤ・チェーンの使用が、条例により義務づけられている地域もありますのでご注意ください。スピードの出し過ぎ、急加速、急ブレーキ、急ハンドルは非常に危険です。アクセル・ペダルの操作により、うまくエンジン・ブレーキで減速を行ない、スピードをコントロールしてください。このような路面でブレーキを踏みますと簡単にスリップや横滑りを起こします。したがって、急ブレーキを踏まなくてすむように、前車との間隔を充分広くとりブレーキを断続的に使用するようにしてください。もし、車が横滑りをはじめたら、ブレーキ・ペダルを離して車の進路をたて直します。タイヤがロックしますと操向不能

になります。雪が少し積もった程度で凍結していなくても同様の注意を払ってください。

タイヤ・チェーンを付けると、駆動力、および制動力は増しますが、横滑り防止の効果はほとんどありませんので、ご注意ください。

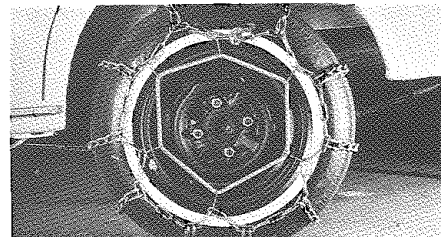
■タイヤ・チェーンの付け方



チェーンは後2輪につけます。まず輪止めをし、ジャッキ・アップをして、タイヤ・チェーンのクロス・チェーンの折曲げが写真のように外側になるようにしてタイヤの上にかぶせ、チェーンの両端を連結します。チェーンを連結するときは、チェーンをいっぱい張って、タイヤの内側を先にか

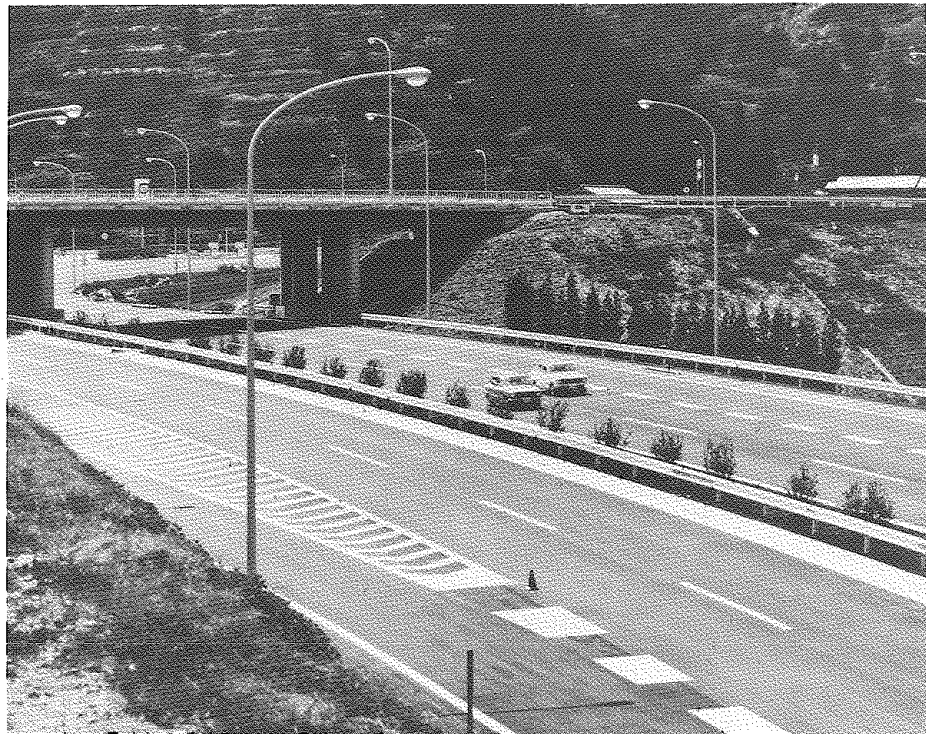
けます。

クリップはできる限り奥の環へかけ、余った環は針金等でむすび、ほかに当るのを防止します。



つぎに、チェーン・スプリング・バンドの各爪を外向きにして掛け、チェーンの環を張ります。スペア・タイヤにタイヤ・チェーンを装着し、タイヤを取かえる方法にすれば比較的簡単に作業が行なえます。

高速道路走行の場合の注意



①＝タイヤの点検

タイヤの故障は非常に危険です。タイヤは高速になればなるほど変形を繰り返す頻度が多くなるためタイヤの温度が非常に高くなり耐久性が著しく低下します。したがって傷のあるタイヤ、丸坊頭に近いタイヤで高速走行をすることは避けてください。

②＝タイヤの空気圧点検

タイヤの変形量を少なくするため高速走行の場合は空気圧を基準より2～3割高めにしてください。同時に全輪同圧になるようにならずタイヤ・ゲージを使用して調整してください。

正規の空気圧は走行前のタイヤが冷えているときに計ります。

③＝ファン・ベルトのゆるみと損傷点検

ファン・ベルトのゆるみおよび損傷はオーバー・ヒートを誘発します。

④＝エンジン・オイル、冷却水の点検

⑤＝燃料は充分入れておいてください。

⑥＝高速道路の本線への進入は本線上の車に注意し、加速車線を一気に加速し

て充分車速がついてからターン・シグナルを出して静かに入ります。

- ⑦＝車間距離は充分保ちます。100 km/h 時には 100m 以上保ちましょう。
- ⑧＝ハンドルも、ブレーキも、アクセルもすべて静かに使うのが安全です。
- ⑨＝追越しは前もってターン・シグナルを出し、前後特に追越し車線の後方に注意し安全を確認したうえで追越し車線に入ります。ルーム・ミラーに追越しした車の右のヘッドランプが見えるまで追越し車線を走ってからターン・シグナルを出して走行車線に戻ります。
- ⑩＝道路標識に注意しましょう。高速道路では行き過ぎても戻ることができませんので出口の標識には特に注意してください。
- ⑪＝高速道路から出るときは出口の案内標識に注意し、減速車線で充分速度を落とします。ランプ・ウェイでは制限速度を厳守しましょう。
- ⑫＝一般道路に戻りましたら高速道路と同じ運転感覚で走行しますとついスピ

ードを出しすぎますのでご注意ください。

- ⑬＝降雨時、特に水はけの悪い補装道路を高速で走行する場合は、タイヤの路面への接地力が低下いたしますので急制動、急加速、急カーブ等は慎しみ、スピードも控え目にします。

緊急処理

■ブレーキが効かなくなったとき

ブレーキの上手な使い方の項(43ページ)で述べましたように万一フット・ブレーキが効かなくなりましたらあわてずに、ギヤをシフト・ダウンし、パーキング・ブレーキをいっぱい作動させて車を止めます。

■オーバー・ヒートしたとき

オーバー・ヒートのときは次のような現象があらわれます。水温計の指針が 120℃を越え、エンジンからキンキン音が発生したりして極端に力がなくなってきました。ラジエーターから蒸気が吹き出します。

このようなときにはすぐにラジエーター・キャップをとらないでください。蒸気が噴出して火傷をすることがあります。オーバー・ヒート気味のときは次の処置をとってください。

- (1)＝車を止め、エンジン・フードを開けて通風を良くする。
- (2)＝車を止めて、エンジンをアイドリング回転より少し高め(1500回転位)てしばらく(5分～10分)運転する。しかし、ファン・ベルトの切損(チャージ・ウォーニング・ランプが点灯する)ラジエーター・ホース等からの水漏れやラジエーターから蒸気が吹き出しているときにはエンジンをすぐに止めねばなりません。
- (3)＝水温が適温になりましたらエンジンを止めます。
- (4)＝オーバー・ヒートしたときは冷却水が少なくなっていることがありますので冷却水の点検・補給をしてください。このとき、急にラジエーター・キャップをはずすと熱湯が噴出して火傷をす

ることがありますのでキャップに布を巻きつけ徐々に回し蒸気を逃がしてから取外します。

夏期は外気温上昇のため手入れ不十分な車はオーバー・ヒートを起こす危険性がありますので次の事柄にご注意ください

○冷却系統（ラジエーター、ヒーター・ホース等）に水漏れのあるときは取扱店のサービス工場にて点検をうけてください。

○ラジエーターの冷却フィンにゴミやこん虫の死がいが付着し、冷却効果を阻害していることがあります。

○ファン・ベルトの張り具合は正常ですか（お出かけ前の点検29頁参照）

冷却系統が完全でも長い坂道を登り続けているときや混雑した市内を長時間、ノロノロ運転を続けているときに水温計が100℃を越えることがあります。トヨタ車のラジエーターは加圧式を使用しますので水温が100℃を少し越えましてもラジエーター・キャップを外さないかぎり冷却水は沸騰いたしません。

このようなときには次のような運転をしてください。

(1)＝交差点等で停止するとき、フット・ブレーキをなるべく使わないで、エンジン・ブレーキを多用してください。

(2)＝特に長い坂道を登るときはエンジンの低い回転数のところで無理をしないでミッションのギヤを一段おとしてエンジンの回転を上げて登るようにしてください。

(3)＝交差点等で停止したときはアクセルペダルを軽く踏んでエンジンの回転数を1500回転位に高めに設定して待機ください。冷却効果が大きくなります。

■エンストしたとき

踏切りや交差点でエンストし簡単に始動できないときはスターターで車を動かすことができます。

平担路ならギヤをトップに入れアクセル・ペダルをいっぱい踏んでスターターをまわします。スターターは長時間（20秒以上）作動させますと損うことがありますのでご注意ください。